

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム菜の花 上野幌館2階	評価実施年月日	平成20年3月21日
評価実施構成員氏名	村田ユカ、津田恵理、梶尾久恵、鈴木明子、野田セツ子、豊口美津子、坂本良子、名畑聡		
記録者氏名	村田 ユカ	記録年月日	平成20年2月28日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

□は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念の中に「地域とのふれ合いを大切に暮らし」「住み慣れた地域での生活を笑顔で送れるよう支援します」を掲げホーム内に掲示している。		
○理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルーム及び廊下に理念を掲げ、更に名札の裏側にも入れていつでも確認できるようにしている。	○	ユニット会議及び朝のミーティング時に理念に沿ったケアができているかスタッフ間で確認していきたい。
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族様には、入居時の契約の際に理念を説明し面会時に分かるよう廊下に掲示している。又、運営推進会議等で地域の方々にホーム理念を説明している。		町内会の回覧板に載せてもらいグループホームについて説明させてもらっている。また家族会にて理念について再度説明し理解してもらえるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時に近所の方と挨拶を交わしている。またボランティアに来ていただき入居者様のお話相手やホームの庭の手入れをしていただいている。	○	近所の幼稚園の慰問や津軽三味線の演奏会・老人クラブの日本舞踊など近隣の方がホームを訪れる機会が多い。今後は反対に町内会行事に参加できるよう努めたい。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	第二自治会長様の呼びかけで福祉会館でのカラオケ会に参加させてもらってる。	○	町内の夏祭りには参加させてもらってるが、準備の段階から拘りを持ち取り組んで行きたい。又、地域の行事にも積極的に参加していきたい。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームヘルパーの実習やボランティアを受け入れている。又、地域の回覧板にて当ホームの入居以外の介護相談を受け付けている。		近所の方が介護保険制度についての仕組みを聞きに来たり電話での問い合わせがある。様々なケースに対してアドバイスをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>研修をとうして 自己評価及び外部評価の重要性と必要性を学んでいる。外部評価で指摘されたこともホームの改善のため取り組んでいる。</p>	○	外部評価の結果をもとにユニット会議で検討、ケアの質の向上のため今後も継続的に取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し町内会、地域包括支援センター、入居者様ご家族から意見をいただきケアサービスの向上に反映している。</p>	○	参加メンバーをもう少し広範囲に広げ、地域の方々の声を聞きサービスの質向上に努めていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護保険事業指導係に制度上の疑問点を聞いたり、提出書類等について相談するなど連携を取っている。</p>	○	管理者会議を活用し、疑問点や要望等を伝えていく様にしたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>札幌市社会福祉協議会の資料や伝達研修で学んだ現在活用している利用者様はいないか今後必要なご利用者には支援していきたい。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修をとうして学んでいる。虐待行為はない。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>本社の職員と一緒に入居者様ご家族が納得していただけるよう説明している。入居者様の状態変化により解約する際はご家族と対応・方針を相談し退居となっている。</p>		入居後に医療行為が必要になってしまった方には、何度も病院にお見舞いに行き担当医の説明をご家族と一緒に同席させてもらい、十分検討した上で納得していただき退去されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の意見・不満・苦情については申し送りやユニット会議で改善に向けて検討している。又、職員では対応できない問題が発生した場合は本社に報告、改善にむけ取り組んでいる。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的に報告、面会時には近況報告を行っている。又、ご家族と電話で密に連絡を取っている。日々の生活様子・散歩や行事等については 菜の花新聞で伝えている。更に金銭管理については個人出納簿で出入金の内容を定期的にご家族に郵送している。	○	ご利用者の暮らしの様子は月1回手紙やお便りで知らせている。又、職員の異動は菜の花新聞で紹介していく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催、ご意見箱の設置、苦情相談の担当者を掲示している。苦情については、ミーティングや会議で検討し、本社にも伝え家族への早急な対応と改善に努めている。運営推進会議にご家族代表の方より家族としての意見を聞いている。		菜の花の他館で苦情が発生した場合は、会議等で報告し合い当ホームで同じようなケースの苦情がないよう努めている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ユニット会議を開き意見を聞き入れ反映させていくよう心がけている。		全職員にアンケート調査を実施しスタッフの意見や提案を聞く機会として運営に反映させている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の状況や体調、レクリエーション等必要な時間帯に職員が確保出来るよう勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新入職員は必ず入居者様に紹介し、早くなじみの関係になれるように努めている。異動・離職がやむえないときは利用者に対する引継ぎを徹底して行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>教育課があり、職員のレベルアップ研修も活発に行われている。(新人研修・スタッフ研修・ケアプラン研修等)外部研修にも積極的に参加しており更に伝達講習もっておりスキルアップに努めている。</p>	○	ホーム内での研修は実施しているがもっと充実した内容にして行きたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>厚別区の管理者会議に出席し、他ホームと情報交換を行っている。</p>		昨年、11月・12月で厚別区のグループホームの見学会を行い、他ホームから見学者を受け入れたり、逆に見学させてもらい交流を深めている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>ゆっくり休憩が取れるようスタッフルームがある。また職員を観察し悩みやストレスがあるようなら声をかけたり面談をしている。又、不定期ではあるが食事会や親睦会も行っている。</p>		全職員に向けてストレスに関するアンケート調査を実施しその結果を踏まえてストレス軽減に向けて改善を図っている。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>時給等資格に応じて昇給などがある。又、勤務調整をし2級ヘルパーを取得した職員もいる。</p>		介護事業部長が定期的に当ホームに在所し、スタッフの業務の成果を把握し、必要時には面接も行なっている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前にご本人と面談させてもらい意向や不安点を傾聴し安心して暮らせるよう説明を行なっている。又、基本的には当ホームに見学に来ていただき、ここで生活を送るイメージを持ってもらい納得した上で入居していただいている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族様の不安や要望・意向など面談を通じて聞きその都度解消している。又、話しづらいデリケートな問題もあるため入居前に生活シートを渡し、書面にて要望や意向を記入していただいている。ご家族より在宅での介護の大変さや悩んでいた事で充分話せる環境作りをし傾聴している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族にとって最善の環境、サービスを本人ご家族の立場に立って対応している。	○	情報収集の時には他のケアマネージャーとも検討するよう努めていきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学に来て頂いたり、レクリエーションに参加してもらったりホームに馴染める環境を作っている。又、体験入居を実施しており短期間当ホームで生活を送ってもらいそれから入居されたケースもある。又、直接自宅を訪問し自宅での生活やご本人の部屋を見せていただきなじみの関係が築けるよう努めている。		希望者には体験入居ができるシステムがある。実際には体験入居されてから当ホームで生活を始めた方もいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様と喜怒哀楽を共有し信頼関係を深めるよう努めている。又、一方的な支援だけではなく得意な事にはスタッフも学ぶと言う姿勢で対応している。編み物も教えてもらったり又、食後の片づけ等では手順が悪いとご入居者に職員が叱られる事もある。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との連絡は常に行い入居者様の日々の生活状況や健康状態等、電話にて報告し情報を共有している。行事にも参加していただき喜怒哀楽を共にしている。定期的に外出や外泊をされるご利用者もいる。	○	室内でのイベントには、ご家族様に足を運んでもらっているが、今後は外出行事にも多くのご家族様が参加していただける工夫をしていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日々の生活状況などを面会時に報告させてもらっている。		お正月やお盆の時期などご家族と一緒に過ごせるよう努めている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族・親戚等の電話連絡や手紙・荷物の郵送など支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係性を理解しており過ごしやすい雰囲気作りに努めている。レクリエーション等行い交流を深め楽しく会話ができるよう働きかける。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の事業所から移動してきたご利用者が以前入居していた事業所へ他のご入居者と一緒に遊びに行っている。	○	解約されたご家族とは挨拶や相談に応じたりしているが、行事等の参加、連絡は行っていない為参加していただけるよう取組んでいきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に思いを聞き何を求めているのか把握している。訴えが困難な方には日々の行動や表情、サインから把握又、ご家族様に聞いたりご本人の求めているところをスタッフ・管理者で話し合い把握に努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やご本人から生活歴をお聞きし把握することにより なじみの暮らしに近づけて行けるよう努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を活用し、各担当者が利用者のアセスメントを行い一人一人の様子一日の過ごし方 心身の状況等把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月ユニット会議を行い、ご利用者の課題や疑問点を話し合い介護計画の検討を行いケアプランに反映させている。又、本人・ご家族様の意見を取り入れ作成している。更に各担当者がアセスメントと介護計画のモニタリングを行い介護計画作成に活かしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	長期計画・短期計画共に見直しや評価を行っている。また期間に関係なくご利用者の状態変化が生じた時にも見直しを行っている。	○	朝の申し送りは毎日実施しているが、その中で介護計画についての話も盛り込んでいきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	飲水量、食事量、排泄状態、バイタル等の身体状況及び日々の様子を記録しておりそれに基づき介護計画や実践に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診はグループホームで対応している。又、行事で出かける時は本社の車と事務職員が支援に来る。買い物、ドライブに行きたいなどの要望には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力の下消防訓練を実施している。又、幼稚園児慰問、津軽三味線の演奏会を行ってもらってる。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者様の希望により訪問理容を月1回利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの所長が参加しているため、そこで地域の情報交換や協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の協力医、及び訪問診療に依頼し往診に来て頂いている。特変があった場合は主治医に連絡し指示に従って健康管理を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医と連携を取りながら指示・助言を受け受診が必要な時は専門医の診療を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回訪問看護師が来て入居者様の健康チェックとスタッフの入居者様に関するかわり方の相談に乗ってもらっている。入居者様に異変があった場合は訪問看護師に相談し、指示を受けている。時にはホームに来て様子を見てくれるときもある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人の情報を病院に提供し、ご家族と連絡を取りながら回復状況等を話し合っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入院時に重度化した時の対応方針について説明し同意を頂いている。入居者様が重度化した場合は、ご家族や担当医と話し合い方針を決めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者様が最後までホームで生活できるようにご家族・訪問看護・主治医と相談し、ホームとしてできる事できない事も含め相談している。(癌末期のご利用者が訪問看護師の協力のもと ぎりぎり迄ホームで生活する事が出来た)	○	重度化しても質の高いケアが保たれるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え希望者についてはアセスメント・ケアプラン・日々の生活情報等を事業所に渡し情報交換している。同じ介護が受けられる様対応に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	新人研修でもプライバシーと個人情報について学んでいる。スタッフは本人に関する事はご家族だけに話している。また秘密保持についてはスタッフ間で徹底している。(入職時、個人情報の守秘義務については契約書を取り交わしている。)個人記録は他者に見られないようスタッフルームに保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意思表示が困難な入居者様については表情の変化など観察し適切な声掛けをして入居者様が決定できるよう努めている。又、着替えや外食時のメニュー等更にレクリエーションの参加は本人の意思にまかせている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様が散歩や買い物等に行きたいと言われた時は一緒に出かけたり又、室内での趣味活動も一人一人のペースでできるよう環境にも配慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	カットやパーマ・毛染め等ご本人の希望で通りで毎月行っている。又、お化粧品をしたりアクセサリを身につけている方もいる。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養士が献立を立てているが入居者様の希望や好みをできるだけ取り入れる様にしている。又、食事の準備・配膳・片付けを一緒に行っている。スタッフも一緒に食事をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は入居者様の好物を把握しており、飲み物についても好きな物を飲んで頂けるようにしている。又、誕生会等にはビールを飲まれる方もいる。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排便チェック表を使用しトイレ誘導を行い排泄していただくよう支援している。トイレ誘導を拒否されている方もいますが改善方法を変えながらトイレで排泄出来るよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望を聞いてから入浴していただいている。又、本人の希望から入浴日を決めている方もいる。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣や睡眠パターンを把握し安眠が得られるよう日中は趣味活動や体操をしていただき昼夜逆転しないよう支援している。又、寝付かれない方には、その時々にお話を聞いたり暖かい飲み物を飲んで頂いたり安心して眠れるように努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人が出来る事、裁縫や掃除、洗濯や調理後の片づけなどのお手伝いをお願いし、ここでの役割を担っていただいている。時間になると掃除機をかける人、モップで拭く人、手すりを拭く人とそれぞれ自分の役割を毎日して下さる。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理をしている方もいる。買い物の際はスタッフと一緒にいきお金を支払っていただいている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お天気の良い日には散歩へ出かけたり散歩がてら買い物へ行き、その帰りに喫茶店によりコーヒーを楽しまれる事もある等 外へ出るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	全員で外出に出かけたり、花見等外出の機会を作り支援している。又、館での行事等にご家族も招待し一緒に楽しんで頂いている。(バイキング・回転寿司・滝野公園・梅林公園等)	○	ご家族に館内の行事には参加していただいているが外出行事にも参加していただけるようにしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望により年賀状や手紙を出したり電話かけたり速やかに行えるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様やお友達が気軽に訪問していただけるよう雰囲気作りに取り組んでいる。又、訪問していただいた際にはお茶を出しゆったりと過ごしていただけるよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は一切なし。職員全員が研修で学び正しく理解している。又、言葉使いも気をつけ言葉の拘束がないか会議等で検討している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	スタッフが連携を取り、見守りを行う事により玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	事故・離所防止のため、常に所在確認を行っている。スタッフ間で連携を取りながら安全を確認し更に情報の共有に努めている。ご入居者がくつろいでいるフロアで記録等を行いながら見守りをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	漂白剤や洗剤等の保管場所には鍵をかけている。薬についてはスタッフルームに保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故に至らないようインシデント報告やひやり・ハット報告を提出。職員間で検討事故の原因を探り再発防止に努めている。社内研修で事故防止について知識を学んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	他のグループホームと協力し2月に2回 救急隊の協力で救急救命講習を実施していただき、全職員が参加でき普通救命講習修了証を頂いている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回防災訓練が行われ、消化器の使い方・利用者様の避難方法などの訓練を実施している。	○	運営推進会議で町内会の方に災害時近隣者の協力が得られる様依頼している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状態が落ちた時や退院時にご家族にすぐに連絡し起こりうるリスクについて検討している。又、転倒の危険のある方についても自力歩行の大切さとリスクについてもご家族様に説明、対応等をご家族と検討し了解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握 更に言動・行動等の観察を行い異変に気付くよう心掛けている。異状があった場合は訪問看護師に相談したり主治医に報告し指示を仰いでいる。又、スタッフ間で情報交換を行い連携を取っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフが把握できるよう処方箋を個人ファイルに入れている。薬の種類・内容を理解する様努めている。薬変更時は介護日誌に記載する。新しい薬については副作用について訪問看護師が指導してくれる。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	ケアチェック表に排便の有無を記録し確認している。便秘予防のため、運動や水分を十分摂っていただいたり、牛乳やヨーグルトをとっていただき自然排便できる様取り組んでおる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。ご自分で出来ない方に対してはスタッフが支援している。義歯については毎日入れ歯をみがいた後洗剤で除菌している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立を作成しており、カロリーや栄養バランスに配慮している。又、個々の1日の食事量や水分の摂取量を記録し把握している。摂取量が少ない方には好みの物を食べていただけるよう支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成している。インフルエンザワクチンも入居者・職員全員が接種している。スタッフ・入居者様・ご家族様の来館時には手洗い・うがいの徹底。更に次亜塩素酸ナトリウムによる調理器具やドアのふ、手すり等 館内の掃除を行っている。又、手拭きもペーパータオルを使用している。	○	ノロウイルスやインフルエンザ流行時期は介護事業部長が各館を回り徹底されているかチェックと指導がある。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具類は毎日消毒している。食材は賞味期限の早い物から使用し、先般の中国産の食中毒の問題も迅速に食材をチェックして。冷蔵庫や冷凍庫内の食品の賞味期限の点検と掃除もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には親しみやすい表札を工夫している。更にスタッフの顔入りプレートも掲示し分かりやすい雰囲気を作っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは自然採光が入りいつも明るく清潔である。又、季節に合った装飾をしたり観葉植物等置き落ち着いて過ごせるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファやテレビを設置し気のあった者同士が談笑したり休まれたり居心地よく過ごせるよう工夫している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていた馴染みの物(鏡台・タンス・仏壇等)を置くスペースが確保されており持ち寄っていただいている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除中はリビング・居室共に窓を開け換気に努めている。又、湿度が適切になるよう濡れタオルを活用しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	段差をなくし廊下やトイレ・浴室に手すりがついており、安全な歩行ができるよう工夫されている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人の何が分かりにくい把握しており、状況に応じて対応している。混乱や失敗が生じた時はスタッフ間で話し合い不安のない取組みに努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたり畑を作り収穫して調理にも使用している。又、天候のよい時は散歩に行く事が多く外の景色を眺め外気に触れる機会を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ① <u>毎日ある</u> ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ① ほぼ全ての家族 ② <u>家族の2/3くらい</u> ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ <u>たまに</u> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②かみずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

下肢筋力防止のため、個人のペースに合わせ散歩に行ったり室内では廊下を利用し、歩け々運動や卓球等 体を動かすレクリエーションを行っている。又、趣味活動の編み物や読書等楽しめる方もいる。更に役割分担が決まっています掃除ではモップ掛け・掃除機掛け・玄関掃除・手すり等、調理については準備(調理味付け・盛り付け・配膳等)から後片付けまで利用者様が行って下さる。季節を楽しめる外出行事もご利用者と相談し毎月実施している。